

## ビロウドカミキリ

炭焼きの日、2012年7月31日。夕食支度のコンパネのテーブルに小型のカミキリが歩いていました。デジカメで撮影した映像を帰宅して調べてビロウドカミキリと同定しました。このカミキリも広葉樹の材であれば拘りなく何でも食べるようです。澄川基地の住人に違いありません。体長20~23mm、7~8月に出現するようです。分布は日本全土。



火入れは8時でした。材の乾燥具合にもよりますが、密閉は12時間前後はかかりますので、数人の泊り込みとなります。楽しみは夕食とアルコール。日帰り組を交えての野点宴会となります。昼間にチップを作業道に敷く作業をしていて、加藤さんがチップの中から変な卵を見つけました。数日前に物置の中にアオダイショウがいたので、その卵ではないかと疑いましたが、アオダイショウの卵にしては小さいという意見がでました。カナヘビではないかということで、卵1個を破りましたら長い図体に4本の足がついていました。帰宅して調べましたらカナヘビの卵であることがはっきりしました。卵は20個ぐらいも一箇所にあったのです。カナヘビの図体からみて卵は大きいと感じました。魚のように一回で20個を産むのではなく、鳥のように一回一個ずつで20回産むとすれば納得できます。しかし同じ爬虫類のウミガメは1回の産卵で100個ぐらい産みますから、カナヘビも1回で20個を産むかもしれませんが、図体の体積よりも20個の卵の方が大きいと思われるので調べてみました。すると1回での産卵方式でした。もしかして複数の親がほぼ同じ場所に産卵したのかもしれませんが。

今年もホタルは出ました。夕闇が濃くなってから出てきました。ヘイケボタルと言ってきましたが、平家の家系の酒井さんから「ヘイケにしては小さい、別の種類かも」という意見を尊重して、2匹捕獲してきました。佐野さんをお願いして専門家に鑑定していただくことになりました。鑑定結果はヘイケボタルでした。

